

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2021

氏名: 松崎賢士郎

筑波大学大学院 人間総合科学研究学群 体育学学位プログラム 博士前期課程 1年

筑波大学 体育専門学群卒

私にとっての 4 年間は、日本一という一つの大きな山を乗り越えるためにすべてを注いだ生活でした。当然その道は険しく、何度も挫折を味わいましたが、そこでもがき苦しんだ時間こそが、今の私の糧となっているように感じます。その中でも、私の最も大きな壁は、決勝戦にありました。特に大学 3 年時では、学生個人も学生団体も全日本選手権も 2 位に終わり、あと一步というところで手が届かない悔しさを何度も経験しました。自分の成長を肌で感じる一方で、なぜ勝ちきれないのかと自問自答する日々が続きました。周りからは「シルバーコレクター」と笑われ、その度に「次は絶対に優勝してやる」と奮起して稽古励んだのをよく覚えています。新型コロナウイルスによって次々と学生大会の中止が決まる中、残るチャンスは 3 月の全日本選手権のみとなり、このラストチャンスをもにしないかと最大の準備をして臨みました。迎えた決勝戦、これまでの成果を発揮するためには何の迷いもあってはならないと思い、悔いのない試合をしようと挑んだ結果、初の個人日本一を勝ち取ることができました。しかし、大会が終わって今に至るまで、達成感や喜びよりも、反省点や新たな課題に目を向ける自分がいます。引き続き大学院生活においても、日本一、そして世界一を目指して、精進して参りたいと思います。

学問、研究の面においても、非常に充実した時間を過ごすことができたように思います。最先端を誇る筑波大学の様々な研究領域から体育やスポーツ、剣道について考え、実践するという経験は、私の大きな財産となっています。大学院では、各領域をさらに深く学び、競技力向上につながるような研究ができたかと考えています。

「日本一剣道が強い大学は筑波大学だぞ」

幼い頃、父から言われたこの言葉がずっと記憶にあった私は、いつしか筑波大学に大きな憧れを抱いていました。その憧れの大学に入学し、学問に研究、そして大好きな剣道に打ち込めた 4 年間は、本当に幸せで充実したものだったと改めて感じます。ご指導いただいた先生方、先輩方、支えてくれた家族、そして何よりどんな困難も共に乗り越えてくれた同期に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。